

令和3年度 管理運営評価シート

施設名	先端科学技術支援センター	現指定管理期間	平成 30 年～令和 4 年(5年 間)
指定管理者	日本管財株式会社	選定方法	公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目	業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持管理業務	清掃 (一般清掃) ゲスト棟/床・テーブル・イス ゲスト棟/客室ベッドメイク他 利用後の清掃/毎回 (特別清掃) カーペット清掃 ガラス清掃 1回/年	客室、セミナー等の屋内及び 施設外周等の日常清掃及び 定期清掃を実施した。	◎	◎
	設備保守管理 (建物・工作物) 日常:1回、定期:2回/年 (電気設備) 日常:1回、定期:6回/年 (空調設備) 日常:2回、定期:2回/年 (給排水衛生設備等) 日常:1回、定期:~2回/年 (消防・防災設備) 2回/年 (自動ドア) 4回/年 (昇降機設備) 12回/年	消火・防災設備、電気設備、 空調設備、昇降機、電話交換 機、自動ドア等の点検・検査 を実施した。	◎	◎
	植栽管理 生垣/剪定・薬剤散布 芝生/草刈り・除草剤散布 樹木・竹藪/剪定他	草刈り、剪定、除草、害虫駆 除等を実施した。(随時)ま た、倒木竹の処理もした。	◎	◎
	警備 日常警備:昼・夜間 機械警備:セコム	職員に対する危機管理を図 り、利用者に対する安全を確 保し、安心感を与えた。	◎	◎
	小規模修繕 発生時	水道蛇口取替(客室トイレ、 センター棟トイレ、レストラン 他)、排水管詰まり清掃、電 話設備(バッテリー取替、内 線電話不通対応)、電気修理 (客室天井照明灯・換気扇取 替)などを実施した。	◎	◎
	法定点検の実施	定期的	定期的に対応した。	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
運営業務	開館日・開館時間等	開館時間:9時～21時 休館日:1月4日～12月28日	同左	◎	◎
	公共性・公平性の確保	利用者全員対象／人権の尊重・個人情報管理	平等な利用の確保・サービス向上・苦情対応ができた。	◎	◎
	各種事業・プログラムの実施状況	自主事業を活発に行い、こころ豊かな兵庫づくりの一翼を担う。	コロナ禍によりイベント中止 コロナ禍が落ち着いたら以前に行っていたヒーローショーなど実施します。	○	○
	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	主にアンケート調査を行い、フィードバックして業務に反映する。	適正なアンケート実施	○	○
利用状況	利用者数	当センターの存在を広く知らしめ、会議室及び宿泊施設の利用者数の増加に努める。	宿泊:3586人[前年:2385人] 会議室:10227人[前年:4542人] テクノポリス内周辺の公共団体や企業等の利用者数が増えた。	○	○
	施設稼働率	セミナー室については、地元住民に当センターの存在を知らしめて利用の促進を図るとともに、ゲストハウスについては、メディアを通じて、より広く集客力を高める。	宿泊:31.7% 会議室:9.4% 機会あるごとに利用促進に努めてきたが、新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言やまん延防止期間中の利用自粛の影響は大きかった。	○	○
収支状況	収支計画と実績	指定管理料:71,290千円 利用料金収入予測:23,745千円	指定管理料:71,290千円 利用料金収入:14,426千円 収支通りの運用が出来、コスト削減出来ている	◎	◎
	経費節減に向けた取組	きめ細かな施設維持管理を行い、経費節減に努める。	省エネ(電気・ガス)、節水等に努めた。	○	○
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	利用者の要望を把握するとともに、苦情が発生した場合は、早期に原因を究明し、誠意を持って対応する。	利用者の利便性を把握して、苦情等ない様、適切な応接に努め好評を得た。但し、度を越した要望には対応しきれないものあり。	○	○
	危機管理体制の確保	指揮監督体制を強化し、有事即応体制を確立する。	緊急連絡体制表の作成、消防・防災訓練の実施。	○	○
	県・関係機関との連携	県所管課・兵庫県立大学と連携を密にするとともに、迅速な県への報告連絡を行う。	緊急連絡体制表の作成見直しにて、県・県立大学他関係機関との連携を密にし、相互理解を深め対応した。	◎	◎
	業務の再委託の状況	適切に行う。	問題なく遂行できている	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

令和2年度の建物・設備大規模修繕工事後の施設運営は利用者からの期待度が大きかったが、新型コロナウイルス感染防止対策の影響もあり、会議室・特に大ホールの利用は大きく伸びたが、小さな部屋の利用は大幅減少、宿泊客は多少回復したが、元の状態には戻らなかった。広告宣伝はしない営業だけでの運営には限度がある。いかに現在利用された方の口コミが貴重な宣伝になるので、大切に対応したい。また、新型コロナウイルス感染予防対策にも時間と費用が発生する為、十分な検討も必要になる。

令和4年度 総合評価シート

評価者：産業労働部新産業課

施設名	先端科学技術支援センター	現指定管理期間	平成30年～令和4年(5年間)
指定管理者	日本管財株式会社	選定方法	公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

指定管理者としての経験を生かし、適正な管理運営を行った。
R2年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響により、営業自粛要請に従う時期もあった。
設備機器や備品の不具合には利用者目線で迅速に対応するとともに、レストラン運営ではアンケート結果を考慮し幅広い世代に喜ばれるメニューづくりをするなど、営業努力が評価出来る。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

R2年度と比較して利用者数が増加しているが、新型コロナウイルス感染拡大前の水準には達していない。
宿泊・レストラン運営では、引き続き利用者への丁寧な対応や感染症防止対策の徹底が求められるほか、
広告宣伝不足が課題であるため、費用面も考慮しながら効率的な宣伝方法を検討していく。
会議室運営では、令和2年度の大規模修繕工事後、会議室・大ホールの利用が大きく伸び、一定の効果が
得られたと考える。一方、コロナ禍により大幅減少した小会議室の利用数回復が今後の課題である。さら
なる利用者サービスの向上、利用者増加のため、適切な設備の維持修繕を行う。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
				A

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和3年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県中央労働センター	現指定管理期間	令和3年～6年(3年間)
指定管理者	公益財団法人兵庫県勤労福祉協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持管理業務	清掃	建物清掃・冷暖房設備運転管理・塵芥処理・環境衛生管理「空気環境測定・水質検査・害虫駆除・貯水清掃・排水設備清掃」	令和3年4月～令和6年3月の業務委託契約(3年契約1年目) 建物清掃・冷暖房設備運転管理・塵芥処理・環境衛生管理「空気環境測定・水質検査・害虫駆除・貯水清掃・排水設備清掃」 10,835,000円(税込み)	○	○
	設備保守管理	自家用電気工作物保安管理 エレベーター保守点検 冷暖房機保守点検 消防設備点検 駐車場自動精算機保守点検 PC ネットワークシステム保守等	業務委託契約により実施 ・自家用電気工作物保安管理(3年契約1年目) 389,400円(税込み)(令和3年4月1日～令和6年3月31日) ・エレベーター保守点検(3年契約1年目) 1,610,400円(税込み)(令和3年4月1日～令和6年3月31日) ・冷房機保守点検(3年契約1年目) 682,000円(税込み)(令和3年4月1日～令和6年3月31日) ・消防設備点検(3年契約1年目) 290,278円(税込み)(令和3年4月1日～令和6年3月31日) ・自動ドア、駐車場精算機保守点検(3年契約1年目) 416,900円(税込み)(令和3年4月1日～令和6年3月31日) ・予約管理システム保守等(3年契約3年目) 132,000円(税込み)(令和2年4月1日～令和3年3月31日) ・HP保守(1年契約) 55,000円(税込み)(令和3年4月1日～令和4年3月31日)	○	○

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持管理業務	植栽管理	(館外)毛虫除去・植栽の手入れ、屋上の枯葉処理 (館内)共用部の緑化の取り組み	・美観を損なわない程度の定期的な植栽、樹木への散水 ・屋上の排水溝に溜まる枯葉の定期除去 ・中庭の高木等管理、近隣建物敷地内への侵入確認、および伐採 ・ヒヤ等、共用部分の観葉植物等を管理し、美観及び憩いのスペース整備に努めた。	○	○
	警備	機械警備(夜間) 遠隔監視(毎日)	業務委託契約により実施 建物警備781,440(税込み)(3年契約1年目) (令和3年4月1日~令和6年3月31日)	○	○
	小規模修繕	日常点検において、必要に応じて実施する	貸出備品等簡易な修繕については、経費節減の為、自前で修理を実施した。	○	○
	法定点検の実施	年2回実施	10月、2月に実施	○	○
運営業務	開館日・開館時間等		・休館日利用者のニーズに対応し、大規模利用等で全館に近い利用がある場合は、開館する等、対応した。	○	○
	公共性・公平性の確保		今年度はホームページをリニューアルし見やすい、解かりやすいレイアウト、最新情報の積極的な発信や空き室状況のリアルタイム更新に努めた。 。月初の受付開始日に抽選制度を今年度も実施し、利用者の負担軽減と公平性の確保に努めた。	○	○
	各種事業・プログラムの実施状況	パンフレットの配布及びチラシ等による広報	・パンフレットを館内各所に設置 ・ファミリーパックガイドブックに広告を掲載	○	○
	利用者満足度調査結果(アンケート調査)	12月、1月でアンケート実施	不満との回答はありませんでした。 労働図書館の認知度が低い	○	○
利用状況	利用者数	370,000人 [前年度:370,000人]	257,470人 [前年度:248,270人]	△	△
	施設稼働率	52.0% [前年度:52.0%]	38.6% [前年度:35.3%]	△	△

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
収支状況	収支計画と実績	(収入) 利用料金収入 29,136 千円 県指定管理収入 20,611 千円 共益費収入 14,301 千円 目的内収入 69 千円 企画事業収入 150 千円	(収入) 利用料金収入 35,348 千円 県指定管理料収入 28,416 千円 共益費収入 14,301 千円 目的内収入 69 千円 企画事業収入 53 千円 (支出) 人件費 34,414 千円 運営費 43,838 千円 企画事業支出 53 千円	○	○
	経費節減に向けた取組	節電に努め経費の削減に務めた	節電効果により、デマンドを抑えることができた。	○	○
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	利用者の苦情、クレーム対応について迅速且つ丁寧な対応を行う。	朝礼で相互報告を行い情報の共有化を図った。問題・課題について定期的に、全体ミーティングを実施し問題解決に取り組んだ。	○	○
	危機管理体制の確保	火災、台風、地震、衛生事故の危機管理マニュアルを更新し、管理体制の確立を図る。	・台風時の対応でマニュアルに基づき行動、対応、報告が実施できた ・実際に避難器具を使い高所からの避難を体験。充実した消防訓練が実施出来た。	○	○
	県・関係機関との連携	県や勤労福祉協会と連携を取る。	・随時、県や勤労福祉協会事務局と連絡を取り、連携を図った。また、今年度も入居団体も含めた全館での消防訓練を実施し、密接な関係づくりに努めた。	○	○
	業務の再委託の状況	専門的な知識や技能を要する業務については、業務委託により効率的に実施する。	・建物管理業務 ・建物保安警備業務 ・電気保守点検業務 ・昇降機保守業務 ・冷温水機保守点検業務 ・自動ドア保守点検業務 ・消防設備保守点検業務 ・駐車場発券機・精算機・カーゲート保守業務	○	○

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

利用者の立場にたった施設運営を行うとともに、改革意識を持って、日常業務に取り組めた。前年に比べ利用率増。新たな利用者を開拓するなど利用率のアップを目標に職員一丸となって頑張る。

令和3年度 総合評価シート

評価者：産業労働部労政福祉課

施設名	兵庫県中央労働センター	現指定管理期間	令和3年～6年(3年間)
指定管理者	公益財団法人兵庫県勤労福祉協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

・利用者アンケートの結果を踏まえた改善策の実施、FAX やメールによる申請システムの運用等、利用者の利便性を向上させる施策を実行した結果、利用者の満足度上昇に繋がった。パンフレットの配布等も工夫して行っており、新規利用者の開拓や、既存利用者の困り込みに尽力し、利用者確保に努めている。

・令和2年度に引き続き、令和3年度も新型コロナウイルスの影響により、例年に比べて利用者・利用率ともに減少しているものの、消毒液の設置やマスク着用の呼びかけなど、利用者の安心・安全を守るための対応を行うなど、新型コロナウイルスの影響下においても利用者の立場にたった柔軟な対応を行っている。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

令和2年度と比較して利用者数は増加しているものの、新型コロナウイルス感染拡大前の水準には達していないため、今後も県としては、施設と定期的に連絡を取り、適切な運営を行うよう指導を行うとともに、さらなる利用者サービスの向上、利用者増加へ取り組み、より良好、適切な運営体制の整備を求めていく。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
B				

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和3年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立姫路労働会館	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	公益財団法人兵庫県勤労福祉協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目	業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課	
維持 管理 業務	清掃	<p>利用者の安全で快適な利用を確保するため、日常清掃及び定期清掃を実施する。</p>	<p>・専門業者に業務委託した。 清掃員が常駐(7:30～11:30 は2名、11:30～15:30 は1名)し、日常清掃を実施した。 ・ビニール床シートのワックス塗布やカーペットの洗浄、ガラスサッシ等の磨き清掃などの定期清掃は利用者の妨げとならないように、休館日に実施した(3か月に1回)。</p>	○	○
	設備保守管理	<p>・日常の管理作業と並行して施設や設備の巡回点検を実施する。 ・早期に異常を発見し、補修修繕費用の軽減及び長寿命化を図る。</p>	<p>・専門業者に業務委託した。 空調設備維持管理、冷暖房運転業務、空調機械等機器整備・保守点検、給排水衛生設備点検管理、消防設備点検管理、EV保守点検、自動ドア保守点検、電気設備保守点検 ・施設や設備の巡回点検を随時実施した。</p>	○	○
	植栽管理	<p>利用者の快適な利用を確保するため、駐車場等敷地内の植栽の剪定や雑草、落ち葉等の清掃を実施する。</p>	<p>・施設外周の垣根剪定及び高木の枝打ちを実施した。 ・落ち葉、雑草等の清掃・除草を実施した。(随時)</p>	○	○
	警備	<p>夜間機械警備(毎日)を実施する。</p>	<p>夜間機械警備を実施した。</p>	○	○
	小規模修繕	<p>日常の管理・点検に基づき、必要に応じて実施する。</p>	<p>随時実施した。 ・スライディングウォール修繕 ・男子トイレ便器修繕</p>	○	○
	法定点検の実施	<p>法令に基づき、点検を実施する。</p>	<p>・設備保守管理とあわせて専門業者により点検実施 ・貯水槽清掃(年1回)、簡易水道検査(年1回) 自家用電気工作物年次点検(年1回)、防火対象物点検(年1回)、消防設備点検(年2回)、EV定期検査(年1回)</p>	○	○

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
運営業務	開館日・開館時間等	利用者のニーズに応じて休館日の変更及び時間外入館への対応等を実施する。	利用者ニーズに応じて休館日を変更しての柔軟な営業を実施(年間2回)。また会場準備のための早朝入館(8時)にも随時対応(年間106日)。	◎	◎
	公共性・公平性の確保	HPによる最新情報の発信及び、空室状況等の情報提供を行う。	随時最新情報や空室状況をHPにて公開した。	○	○
	各種事業・プログラムの実施状況	行政機関、経営者団体、労働者団体等の協力を得て「お仕事川柳コンクール」を実施する。	「新型コロナを踏まえた新しい生活様式」にも焦点を当て、関係団体・報道機関の協力を得て第17回川柳コンクールを実施 【募集:11月1日～令和4年1月14日応募句数:331句】	○	○
	利用者満足度調査結果(アンケート調査)	利用者へのアンケート調査を実施し、管理運営の改善に反映させる。	・アンケート調査期間 令和3年11月1日～12月26日。 ※期間中、全利用団体へアンケート用紙配布	○	○
利用状況	利用者数	目標年間利用者数 289,000人 [前年度:225,272人]	利用人数 253,953人 新型コロナの影響により目標数に及ばなかったが前年度を上回った。	○	○
	施設稼働率	目標年間利用率 54% [前年度:40%]	利用率 46.3% 新型コロナの影響により目標数に及ばなかったが前年度を上回った。	○	○
収支状況	収支計画と実績	利用料金収入見込み額 19,122千円 県指定管理料収入見込み額 16,005千円 企画事業収入見込み額 109千円 目的内使用料 55千円	・収入 利用料金収入 19,519千円 県指定管理料収入 20,672千円(整備費除く) 企画事業収入 80千円 目的内使用料 56千円 ・支出 人件費 18,100千円 運営費 22,091千円 企画事業支出 80千円 目的内使用支出 56千円	○	○
	経費節減に向けた取組	省エネへの取組(節電・節水等の実施)	事務所内間引き消灯、各階廊下、フロア部分の適宜消灯対応の継続実施	○	○

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	アンケートを実施し意見、要望を聞く。	アンケート調査を実施した。	○	○
	危機管理体制の確保	・危機管理マニュアルの整備 ・消防訓練の定期実施	・危機管理マニュアルの更新 ・年2回消防訓練を実施した。	○	○
	県・関係機関との連携	運営委員会を開催し、関係機関の代表者の意見をもとにさらに充実した運営を図る。	運営委員会を開催(令和4年3月)し、様々な意見をいただいた。	○	○
	業務の再委託の状況	専門的な知識や技能を要する業務については、業務委託により効率的に実施する。	・建物管理業務 日常清掃及び定期清掃 空調設備維持管理業務 給排水衛生設備点検管理 ・乗用エレベーター保守点検業務 ・機械警備業務 ・自動ドア保守点検業務 ・電気設備点検業務	○	○

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

<p>・今年度も新型コロナの影響により利用に関する制限等をお願いする事が多かったが、施設について日常的に目視点検を行い、老朽化が進んでいる設備の修繕工事を行うなど、利用者が快適に利用できる空間を提供することができた。</p> <p>・来年度においては以下の内容を重点業務取組として運営を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 労使団体への働きかけ強化、新規利用先の発掘・誘致による利用率向上 ② インターネット環境の整備やオンライン予約の導入による利用者サービスの向上 ③ 施設の特徴を生かした会館主催事業の企画充実による利用の促進 ④ 施設設備の老朽化への計画的な対応、利用者ニーズに沿った新設備の考案 ⑤ 日常的な施設設備点検による安全安心の確保 ⑥ 新型コロナウイルス感染症対策の徹底
--

令和3年度 総合評価シート

評価者：産業労働部労政福祉課

施設名	兵庫県立姫路労働会館	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	公益財団法人兵庫県勤労福祉協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

- ・利用者満足度調査結果を基に、付属設備等の充実を図るとともに、利用者ニーズに応じ休館日も営業を実施するなど、サービスの向上が認められる。
- ・「お仕事川柳」の実施など、県民の文化的活動の促進につながる事業を継続的に運営している。
- ・利用者アンケートの結果を踏まえて会議室等の付属設備の充実を行うなど、利用者のニーズに沿ったサービスの向上に努めた結果、新型コロナウイルス感染拡大の影響下でも利用者数・利用件数ともに施設全体的に昨年度と比較し回復傾向にあり適正な施設管理業務が行われていると言える。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

令和2年度と比較して利用者数は増加しているものの、新型コロナウイルス感染拡大前の水準には達していないため、今後も県としては引き続き適正かつ必要な指導、監督に努めるとともに、利用者サービスの向上のため、良好な管理・運営の継続と、有効な広報、アンケート実施などの取り組みを求めていきたい。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
B				

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和3年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立但馬ドーム	現指定管理期間	令和4年度(1年間)
指定管理者	(公財)兵庫県勤労福祉協会・全但バス(株)グループ	選定方法	非公募・前管理者選定

1 指定管理者による自己評価

評価項目	業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課	
維持 管理 業務	清掃	・日常清掃及び定期清掃を実施。	○	○	
	設備保守管理	<ul style="list-style-type: none"> ・以下のとおり設備の保守管理を実施。 ・自家用電気工作物保安管理(毎月1回) ・消防設備点検(総合点検年1回、機能点検年1回、防火対象物年1回) ・給排水設備(受水槽清掃年1回、水質検査年1回、汚水槽清掃年2回) ・空調点検(ボイラー年1回、空気調和機・全熱交換機・チラーファンコイル年2回) ・エレベータ点検(毎月1回) ・害虫駆除(年2回) ・可動設備点検(開閉屋根、ピッチャーマウンド、可動席、スコアボード、台車) 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画どおり実施し、清潔な利用環境を提供した。 ・各委託業務年間計画に基づき、委託業者と連携を密にしながら、安全で快適な利用環境を提供した。 ・日々の施設巡回による点検を徹底し、修繕箇所の早期発見・対応を図った。 	○	○
	植栽管理	・随時実施。	<ul style="list-style-type: none"> ・委託業者と連携し、状況に応じ除草・剪定を実施するとともに、職員による剪定等も精力的に行い、安全性の確保や景観の美化を図った。 ・専門業者の指導を受け、芝生の維持管理を行い、利用環境の向上を図った。 	◎	◎
	警備	・夜間機械警備(毎日)を実施。	・夜間の防犯・防災体制及び夜間緊急連絡体制を整備している。	○	○
	小規模修繕	・異常個所の早期発見・対応を図る	・職員による日々の施設巡回、設備のメンテナンス点検を実施し、事故の未然防止等を図った。	○	○
法定点検の実施	・上記設備保守管理のとおり。	・上記設備保守管理のとおり。	○	○	

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
運営業務	開館日・開館時間等	<ul style="list-style-type: none"> ・早期開館、休館日の変更等柔軟に対応するとともに、夜間利用の拡大を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続きドームグラウンドを夜間バッティング練習場として設定(通年・14回)し、夜間の有効活用を図った。 ・年度を通じて早朝開館や種目に応じた可動席の移動等、利用者のニーズに応じた柔軟な対応を図り、満足度の高いサービスを提供した。 	◎	◎
	公共性・公平性の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・公平な利用機会を提供するため、以下のとおり情報提供を行う。 ・但馬記者クラブ(二八会)での記者発表 ・但馬内市町広報誌への掲載 ・但馬内情報誌(スパイス、T2、FMジャングル等)への掲載 ・ホームページやSNSを活用した情報の早期発信 ・全但バス(株)関連施設での施設のPR、ラッピングバスの運行 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種情報媒体を通じて、リアルタイムでわかりやすい情報発信を行い、天候に左右されない施設として地域に浸透し、幅広い用途に利用されている。 	◎	◎
	各種事業・プログラムの実施状況	<p><利用促進事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドームでフルスイング！！ほか6事業を実施(内容等別紙のとおり)。 <p><自主事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラウンド・ゴルフ推進事業(但馬ドーム杯グラウンド・ゴルフ交流大会等)ほか3事業を実施(内容等別紙のとおり)。 	<p><利用促進事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・但馬ドームでフルスイング(通年)ほか5事業を実施したが、但馬ドームで遊ぼう！！(但馬ドーム×アウトドア)は中止。また、第23回全日本身体障害者野球選手権大会は無観客で実施。 <p><自主事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラウンド・ゴルフ推進事業ほか3事業を実施。なお、但馬ドーム杯グラウンド・ゴルフ交流大会は規模を縮小して開催。 ・但馬ドーム・グラウンド・ゴルフ練習会を通じて参加者の交流促進や一層の技術向上を図った。また、従来のドーム棟グラウンドでの開催に加え、新たに芝生グラウンドでも開催。 	○	○

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
運営業務	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	・アンケート調査(団体利用対象)を実施し、調査結果の分析・検証を行う。	・利用団体を対象にアンケート調査を実施。 期間:12月～1月 回答率:74%(52団体/70団体) 施設全体の満足度:88% ・利用相談時や運営補助時に、直接利用者からの施設に対する要望やニーズを把握するなどきめ細かな対応を行い、満足度を高めリピーターの確保を図った。	○	◎
利用状況	利用者数	目標 250,000人 [前年度:77,073人]	推計入園者数 91,667人	○	○
	施設稼働率	目標(多目的グラウンド) 96% [前年度:74.5%]	多目的グラウンド利用率 74.4% ・新型コロナウイルス感染拡大により緊急事態宣言が発令され、一部貸館業務の休止(4/26～5/11)、開館時間の短縮(5/12～5/31、6/1～6/20、8/20～9/30)及びまん延防止等重点措置の実施等により、学校行事、大会等が中止となったこと、また、10月の天井落下防止工事による利用キャンセル等により、利用率は目標を大きく下回り昨年度と同程度にとどまった。 ・新型コロナウイルス感染症対策を講じながら利用促進に取り組んだが、一部事業の縮小、中止を余儀なくされた。	○	○
収支状況	収支計画と実績	・収入(税込み) 利用料金収入 11,364千円 利用促進事業収入 1,620千円 自主事業収入 3,362千円 ・支出(税込み) 人件費 62,460千円 運営費 46,483千円	・収入(税込み) 利用料金収入 10,249千円 利用促進事業収入 1,164千円 自主事業収入 2,275千円 ・支出(税込み) 人件費 58,800千円 運営費 46,544千円	○	○

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
収支 状況	経費節減に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ・見積合わせ等コスト意識の徹底を図る。 ・多目的グラウンドの照明等の効率的運用により電気量の節減を図る。 ・水道メータを日々計測し漏水防止による節水を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数者見積合わせの実施、日々の巡回・点検の強化により修繕箇所の早期発見に努めたが、老朽化により修繕費が嵩み運営費は昨年度より増加した。 ・光熱水費について、こまめな冷暖房等コスト意識の徹底を図ったが、大雪の影響等により昨年度より増加した。 	○	○
	苦情要望等の対応体制・内容	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間の緊密な報告・連絡及び必要に応じた幹部会、全体会を開催。 ・要望、苦情への迅速な対応及び要件に応じた協会事務局、県労政福祉課との協議による適切な対応を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員が適切な対応ができるよう情報の共有を図った。 ・安全、安心を第一に考え、利用者の立場に立った満足度の高いサービスを提供するなどホスピタリティの向上を図った。 	◎	◎
	危機管理体制の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルに基づき以下のとおり実施。 ・イベント等の事故に備えた職員対象のAED救急講習会の開催 ・イベント等への看護師の常駐や地域の医療施設との連携 ・コンソーシアムによる強固なバックアップアップ体制による危機管理 ・消防訓練の実施(9月:総合訓練、3月:避難通報訓練) 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント時の怪我、事故等に備えて常駐看護師を配置。 ・年2回の消防訓練を通じて危機管理体制の充実を図り、利用者が安全かつ快適に利用できるよう管理運営を行った。 ・共同事業体である神姫バス(株)と連携し、イベント時の緊急対応体制を確立。 	○	○
運営 体制	県・関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県、豊岡市、観光協会、商工会議所、商工会、全日本身体障害者野球連盟、兵庫県ソフトボール協会、但馬ドーム応援隊ファンクラブ等との緊密な連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営協議会、運営協力者会議は、新型コロナウイルス感染症の拡大により開催見送り。 ・但馬小学生駅伝競走大会、高校生の各種ソフトボール大会、全日本身体障害者野球選手権大会、豊岡青年会議所による集客イベント等を開催。 ・応援隊については、イベントのボランティアとして参加・協力をいただいた。 ・関係機関との円滑な協力体制のもと、継続事業の実施及び新たな事業の誘致を図った。 	○	○

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
運 営 体 制	業務の再委託の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・以下のとおり委託。 ・三菱重工機械システム(株) (可動設備) 4,700 千円 ・神姫バス(株)(清掃・設備保 守) 6,625,千円 ・日本管財(株)(輸送設備保 守、機械警備) 1,848 千円 ・全但バス(株)(利用促進) 1,048 千円 ・シルバー人材センター(植栽 管理) 1,300 千円 	<ul style="list-style-type: none"> ・施工業者や共同事業体の 構成団体に委託し、不具合の 迅速な対応を図るとともに、 安定した維持管理等を行っ た。 	○	○

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

・新型コロナウイルス感染症の影響により、主催事業の中止等を余儀なくされるなど、利用状況は昨年度と同程度にとどまったが、日本女子ソフトボールリーグ1部豊岡大会、全日本身体障害者野球選手権大会等全国規模の大会を開催した。

・グラウンド・ゴルフクラブ等の中高齢者団体の利用が定着し、生涯スポーツの実践・普及及び、学校行事等地域の宿泊施設と連携した利用を通じて地域に貢献した。

・幅広い利用者ニーズに対応するとともに、入念な利用相談等を通じて満足度の高いサービスを提供した。

・計画修繕工事の実施等により、耐久性の向上を図るとともに快適な利用環境を提供した。

・来年度で計画修繕工事は終了するが、設備の老朽化が進み今後も修繕費が増加することが懸念され、兵庫県、豊岡市と協議し対応を図る。

・次期指定管理(今年度公募)においては、これまでの取組を継承・発展させるため、芸術文化観光専門職大学等と連携し、民間活力も導入しながら体験型のアウトドアイベント等を展開予定。

令和3年度 総合評価シート

評価者：産業労働部労政福祉課

施設名	兵庫県立但馬ドーム	現指定管理期間	令和4年度(1年間)
指定管理者	(公財)兵庫県勤労福祉協会・全但バス(株)グループ	選定方法	非公募・前管理者選定

1 指定管理者の業務実績に関する評価

- ・施設設備の維持について、職員による点検、メンテナンスによる異常の早期発見と対応など、適切な管理を行うことにより、利用者の安全確保を図っている。
- ・休館日開館の実施等、利用者のニーズに合わせた施策を実施し、利用者満足度の向上に向けた取り組みができてっていると評価できる。
- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、臨時休館時など施設の利用制限がある中、施設の備品メンテナンスを行うなど、施設の環境改善に取り組み、結果として利用人数も令和2年度より増加した。また施設運営においては、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら利用促進に取り組んだ。
- ・グラウンドゴルフ大会の開催、広報誌、AM ラジオ、県内広域でのチラシ配布による宣伝活動等、利用者の取り組みに向けた施策を順次行っており、利用者数の増加に向け取り組んでいる。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

令和2年度と比較して利用者数は増加しているものの、新型コロナウイルス感染拡大前の水準には達していないため、県として、引き続き適正かつ必要な指導、監督に努めるとともに、利用者サービスの向上のため、良好な管理・運営の継続を求めている。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
B				

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である

C	△と×の合計が20%超 40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和3年度 管理運営評価シート

施設名	丹波年輪の里	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	(公財)兵庫丹波の森協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目	業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
清掃	清掃管理業務を令和3年度から直営方式に変更(一部シルバー人材センターに派遣委託)した。木の館・クラフト館内の清掃、屋外トイレ等の清掃、苑内の清掃、草刈り	業務委託から直営方式に変更することで、約700千円の節減が可能となり、さらに業務の見直しを行い効率化を図った。 年間約 3,400 千円(R2:4,100 千円)	○	○
維持管理業務 設備保守管理	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンシステム保守管理委託業務(経理システム及び事務所内ネットワーク、サーバートラブル等対応) ・電気設備保守管理委託業務(電気設備保守月例点検) ・消防設備保守管理(消防設備保守点検) ・空調機保守業務(空調機点検季節変換時) ・夜間管理業務 年 308 回 	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンシステム保守管理委託業務 年額 290,400 円(税込み) パソコンシステム保守管理委託業務:不正アクセス防止はじめを円滑なシステム運用に努めている。 ・電気設備保守管理委託業務 年額 237,600 円(税込み) 電気設備保守管理委託業務:故障等の対応、電気に関する相談など良好である。 ・消防設備保守点検(年2回) 年額 106,700 円(税込み) ・消防設備保守点検。不良箇所を修繕し、安全維持に努めている。 ・空調機保守業務(年2回) 年額 145,200 円(税込み) ・空調機保守業務 平成28年度にほぼ全機種更新した。但し、レストランのみ旧設備であり、対応部品もなく老朽化による故障が懸念される。 ・夜間管理(年 220 日) 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため 88 日間取りやめ 年額 1,214,259 円(税込み) 夜間管理業務:夜間の貸館業務に対応するため、午後 5 時 15 分～9 時 15 分の時間帯を夜間管理を委託。利用者のサービス向上に寄与している。 	○	○

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	植栽管 理	・公園管理委託業務(①苑内の樹木の剪定2回、②樹木防虫剤散布2回、④除草剤散布2回等)	・公園管理委託業務 年額 770,000 円(税込)(R2:1,700 千円) 樹木等の状況を熟知しており、適切な樹木等管理に努めているが、植栽から 33 年が経過し、樹木の老木化、立ち枯れも散見され、枝折れによる利用者への落下、根張りが進み苑路舗装の隆起による散策者転倒も散見されており、更なる適切な管理が求められている。 また、広大な敷地(約 6 万㎡)の雑草の管理に苦心しているが、令和 3 年度から草刈り業務を直営化したことで 930 千円の節減を行った。	○	○
	警備	機械警備委託(夜間及び休館中の無人警備) 防犯カメラの設置	・機械警備委託(R3 年度より 3 年契約) 年額 323,400 円(税込み) 異常発報にも迅速・的確に対応し、安全管理の維持に努めている。 また、防犯上の抑止効果や事件発生時の記録を取るため防犯カメラを設置し利用者の安全確保に努めている。	○	○
	小規模 修繕	・必要に応じ修繕を行う(施設設備木部等腐朽箇所、老朽箇所修繕、機械機器定期点検等)。	空中回廊遊具修繕工事:2,400,060 円 アトリエ棟(旧ハバロフスク館)周辺コンクリート打設工事:1,393,260 円 屋外トイレ改修工事(洋式化):621,500 円 非煙装置修繕工事:353,000 円 苑路修繕工事:277,750 円 開園から 33 年が経過しており、令和3年度でクラフト館、アトリエ棟において木部劣化診断をおこなった。結果、アトリエ棟主柱内部で最大 80%欠損している箇所も判明するなど、表面上顕在化していない木の劣化が懸念される。 運営資金の状況をみて、危険度、安全上、業務遂行上などを加味して優先順位の高いものから取り組んだ。今後は引き続き木の館等劣化診断等を行い、費用対効果も踏まえながら計画的な修繕を行っていく。	△	△
	法定点 検の実 施	・自家用電気工作物保安点検 ・消防用設備等法定点検	・自家用電気工作物保安点検 月次点検毎月1回、年次点検1回 異常なし ・消防用設備等法定点検 年2回 指摘なし ※業務委託により実施(設備保守管理欄に記載のとおり)	○	○

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
運 営 業 務	開館日・開館時間等	・開館 9 時から 21 時(夜間＝クラフト館・木の館予約状況に対応)・毎週月曜日休館、年末年始(12/29～1/3)休館	・施設管理規則に沿った運営に努めた。 ・今後も施設管理規則に沿った運営に努める。	○	○
	公共性・公平性の確保	・毎月行事広告(神戸新聞丹波版、丹波新聞掲載)ほか情報発信 ・ホームページのお知らせ欄掲載の情報発信 ・スローガン「安全安心」「心地良さ」「創造をはぐくむ工作指導」接客の実施	・各種イベントの実施に向けては、令和2年度の実施したホームページのスマホ化対応を行い、またインスタグラム、フェイスブック等の活用など、広報に努めている。 ・インターネットを活用し、動画やブログも取り入れ配信し、成果をあげている。 ・閲覧件数の維持に努めている。そのほか、道の駅、公共施設等にパンフレット設置をお願いしている。 工作キットメニューは毎年更新している。	○	○
	各種事業・プログラムの実施状況	・指定事業、企画事業、補助事業、林産指導事業の計画実施	・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、5月のGWフェスタは中止、丹波の森ウッドクラフト展、11月のアートクラフトフェスティバルは予定どおり実施した。 更には木育活動も感染対策をとりながら、一部玩具の貸出しの形式で実施した。今後はこのコロナ禍にあっても感染症対策を十分に取って創意工夫をすることで目標に近づけていく必要がある。	△	△
	利用者満足度調査結果(アンケート調査)	・利用者満足度調査の実施(年2回、上期及び下期に実施)①4月～9月②10月～3月	アンケートにできる限り協力をお願いしている。年間を通して 21 件と少ないが、概ね良い評価を得ている。今後も利用者のためのよりよい施設づくりに努める。 ・利用者から直接のご意見等をいただき、改善すべきところは、今後も改善に努めていく。 アンケートには反映されていないが、施設の老朽化に対する意見を耳にすることが多いと感じる。 幼児から高齢者まで幅広い年齢層が楽しめる公園であることから、更なる魅力アップのため、利用者のニーズの把握に努める。	△	△

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
利用状況	利用者数	令和3年度利用件数目標 4,000件 [前年度:3,700人] 令和3年度利用人数目標 97,000人 [前年度:97,000人]	利用件数 H29 3,621件 H30 3,641件 R1 3,412件 R2 2,606件 R3 3,908件 ※対前比 150% 利用人数 H29 94,636人 H30 97,078人 R1 74,029人 R2 22,826人 R3 58,917人 ※対前比 250% ・管内の公的施設等にチラシやパンフレットを配置やホームページ、SNSでの発信に努めたが、新型コロナウイルス感染症の影響がまだまだ続いているものの、回復基調にある。	○	○
	施設稼働率	会議室等 8室 [前年度:25%] イベント広場 [前年度:20%] (データ:利用状況報告様3号)	H29 会議研修施設 23.4% イベント広場 21.3% H30 会議研修施設 22.9% イベント広場 20.4% R1 会議研修施設 21.3% イベント広場 18.1% R2 会議研修施設 21.4% イベント広場 12.3% R3 会議研修施設 20.9% イベント広場 14.3% 新型コロナウイルス感染症の影響がまだまだ続いているものの、下期においてイベント等の開催も可能となり利用者数も回復してきている。	○	○

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
運営体制	県・関係機関との連携	丹波県民局、(公財)兵庫丹波の森協会(丹波の森公苑、ささやまの森公園、丹波並木道中央公園)、木材製材業関係者等と連携	<p>催しやイベント、広報等に相互に協力し実施している。特に木工材料調達の面で実施できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木育を推進する施設としての役割を全職員に周知徹底し、事業を推進した。 ・近隣の県立施設との事業連携を強化するため、定期的な会議を開いた。 <p>検討を重ねそれぞれ持っている特徴を活かした事業を令和4年度から実施することとなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の制約の中で、創意工夫をして安定的な収入の確保することが課題であると再認識している。 <p>特にコストパフォーマンス踏まえたソフトの充実が求められている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も来園者に安全安心して利用してもらえるよう、施設の維持管理に努めて行く。 <p>施設が33年が経過し、老朽化しているため、維持管理に必要な修繕箇所が多く発生しており、それに伴う費用増加が今後の課題である。</p>	○	○
	業務の再委託の状況	設備保守管理において、ノウハウを持った業者等に再委託する。	<p>パソコンシステム保守管理委託業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気設備保守管理委託業務 ・消防設備保守管理 ・空調機保守業務 ・夜間管理業務 ・公園管理委託業務 	○	○

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

施設の老朽化対策については単なる改修に留まらず、利活用の増進を基本として積極的に取り組んだ。今後もこの方針は継続して取り組む。

コロナ禍にあって、with コロナの理念の下、万全の対策を講じながら創意工夫や利用者のニーズ把握しながら利用増進に努める。

令和3年度 総合評価シート

評価者：産業労働部労政福祉課

施設名	兵庫県立丹波年輪の里	現指定管理期間	令和3年～6年(3年間)
指定管理者	公益財団法人兵庫丹波の森協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

- ・施設維持管理運営業務においては、委託業務の契約額の見直しなど、適正に遂行されていると言える。また、職員の点検等により、故障箇所を早期発見し、大規模な故障を予防し修繕費を削減することができている。
- ・今年度は例年開催しているイベント等が、新型コロナウイルス感染拡大の影響により規模を縮小して実施することを余儀なくされたものの、木育を推進する施設としての役割を果たすために事業を推進するなど、地域活性化に大きく貢献していると言える。
- ・丹波市が実施したアンケートでよく利用する公園施設として良好なアンケート結果を残すなど、幼児から高齢者まで幅広い層が利用できる施設として評価されている。
- ・今後も、利用者の多様化に対する柔軟な対応と利用者の求めるサービスの提供を行い、利用者の増加に努めるよう努力していきたい。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

令和2年度と比較して利用者数は増加しているものの、新型コロナウイルス感染拡大前の水準には達していないため、県として引き続き適正かつ必要な指導、監督に努めるとともに、利用者サービスの向上のため、良好な管理・運営の継続と、有効な広報・アンケートの実施などの取組を促していく。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
B				

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である

C	△と×の合計が20%超 40%以下である
D	△と×の合計が40%超である